

2024/4/28

「神の愛に応える」

イザヤ 43:1-7

今年も総会礼拝を迎える季節となりました。境内のジャスミンやハーブたちが、緑の葉を繁らせて、豊かな香りを放っています。1世紀に近づく長い年月を、京都復興教会と共に歩まれた、山根芳枝先生が、24日天に召されました。救いの恵み告ぐる我は楽しみ溢れ歌とぞなる、愛唱歌の信仰が、この教会を証ししています。

献身の年

アシュラムによる教会形成を掲げて、今年は4年目を迎えます。今年のテーマは「神の国の体験と献身」です。献身と聞くと、牧師や宣教師など、ごく一部の人を連想するかもしれませんが。しかし、クリスチャンになるということは、直接献身者にならなくても、実はすべての人は神の国の働きのために、応答する使命があるということです。アジアのクリスチャンたちは、受け継いだ信仰と祈り、そしてみことばによって、自宅や集会所を用いて教会を生み出していています。未熟な部分や、整えられていない所もありながらも、それを凌駕する、情熱と勢いがあるのです。

京都復興教会が約80年前に復興された時、専任の牧師はいなく、会堂もありませんでした。四ノ宮の粟津家の二階が会堂であり、膳所の緒形牧師は巡回教師でした。炭さえ持ち寄るほどの教会の貧しさの中であって、私たちの先達は、京都のリバイバルを信じて「京都復興教会」と名前を改称したのです。

神の業は、苦難の中にも力強く進むことを命じます。今年は、献身の年なのです。

価高く貴い者よ

献身の年に、祈り求めて与えられたみことばが、イザヤ43章4節でした。この箇所は、昨年夏、赤岩神学生が一生懸命、夏期学校の奨励を語ったところ。ありのままの姿を受け入れてくださる神様に、応答して生きる姿は、素晴らしいと思いました。神の愛のゆえに、恐れず身を捧げる者となりましょう。

今年の創立記念礼拝では、教会で初めて中国人の呉艶萍姉の洗礼式が行われました。神様は、私たちが世界のどこにいても、必ず救いあげ、「価高く、貴い者よ、私はあなたと共にいる」と語りかけてくださる方です。この約束ほど、私たちにとって大きな恵みは他にありません。私たちが世界だと思っている、車で行ける地域の、はるか遠くまで、神様は全世界を創造されたお方です。このお方が、恐れるな、わたしはあなたをどこにいても共にいる、と約束してくださっているのです。スマホや携帯の何百人という人々の、はるかに多い星の数以上の魂をご存知のお方が、独り子イエス・キリストを身代わりにするほどにあなたを愛していると言ってくくださるのです。

預言者イザヤは、イスラエルの民が歴史上最も大きな受難を受けた時代に、この神の言葉を語りました。その響きは世界の果てに、今も響き、応答を待っています。